

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人つばさ 矢板事業所		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	制作活動や季節的なイベント開催により、様々な経験や体験を提供し活動プログラムが固定化しないよう工夫されている。	季節や行事に合わせた制作活動や、地域ボランティアの協力を得てイベントを実施すること、また運動や感覚を始めとした5領域を意識したオーダーメイド型の本人支援を実施している。	保護者向けに、活動や制作あるいは遊んでいる姿等を見る機会を増やすと共に、保護者同士の繋がりが図れるよう取り組んで行く。
2	保護者へのサポート体制。	ご要望内容により、適宜面談を実施し助言と支援を行っている。また、電話等による相談も即時対応するよう取り組んでいるほか、自治体と連携しペアレントトレーニングも実施している。	相談以外にも、保護者向け評価表を基にニーズに応じた対応や課題解決に取り組んで行く。
3	発達に応じた作業療法や言語療法の専門指導や、心理士によるカウンセリング等を実施している。	個別や小集団による専門指導を定期的実施するほか、職員による保護者相談以外に、希望により心理士によるカウンセリング実施の機会を設けている。	個別や小集団による専門指導と通常支援を療育の両輪と捉え、保護者要望も伺いながら継続的に実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会を設けることが少ない。	交流機会を求める声(少数派)と、現状で満足(多数派)との意見が分かれていることに加え、日常生活が忙しいご家庭が多くニーズに応じた柔軟な対応が必要。	事業所における年間計画に盛り込んだうえで、療育場面の見学・確認や保護者自身の関りを行える保護者参観等の機会を増やし、必要に応じ交流を促していく。
2	一部関係機関との連携を深めることが必要。	関係機関のうち、市町村や学校とは十分な連携を図っているが放課後児童クラブや他の放課後等デイサービス事業所とは更に連携を密にすることが必要。	子ども本人を支援の輪の中心と考えており、関係機関の区別なく連携を深めていく。また、相談支援事業所とも連携を深め、期待される役割を認識し適切な支援を提供していく。
3	環境面の改善が十分なものとなっていない。	旧小学校の敷地で一定の広さを確保している反面、環境整備が不十分でその改善には相応の労力を要する。	適宜環境整備を進めていくことと、教室や廊下等の危険箇所を確認し、怪我に対する予防的処置を施していく。